

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学
「就業力を育てる3ステップシステム」
プロジェクト
<http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム

「ビデオ教材ワークショップ」を開催しました

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)



去る8月8日に、ワークショップ「ビデオ教材を用いた就業力育成を考える」を法政大学にて開催致しました。当日は学内外から約20名のご参加を頂き、ビデオ上映から制作意図の解説に始まり、前期授業での実施状況のご紹介を行った後に、小グループに分かれての自由討議を行いました。当プロジェクトの初めての試みでしたが、当日の様子についてご報告いたします。

前期授業における学生の想定外の反応

教材ビデオに対する想定外の学生の反応の中で興味深かったのは、「ゼミ活動におけるチームワークや責任の重要性が理解できた。先生の指示はちゃんと聞くべきだと思った。」というものです。ビデオでは新人の思い込みによる未熟な点を、上司・職場先輩が助言するシーンがあるのですが、そこから自分勝手な行動でゼミ仲間に迷惑をかけてはいけないと気づかされたというのです。

また、就職セミナー的な学びですが、「消費者向け営業(いわゆる BtoC)と法人向け営業(BtoB)の違いが理解できた。」というものもありました。こうした実践を通じての新たな知見は、今後のビデオ教材の活用の幅を広げます。

略歴

84年成城大学法学部卒。

日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

e-mail:

ysuzuki@stage41.com

yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp

研究室は新見附校舎2F

参加者からのご意見・ご要望

今回のワークショップにご参加頂いた方々は、国立大・私大教員、職員(キャリアセンター系)、ハローワーク職員、民間企業の方々から、映像制作のスタッフまで、バラエティに富んでおりました。それが解説後のグループ別討議の多彩なご意見やご要望につながりました。

例えば、「ネット検索している新人へのダメ出し」「総合職・事務職・公務職の違い」「理工系学生にむけたもの」「各種業界のシリーズ化」「大学だけでは無く企業の新人研修にも活用できる」等々、今後の制作や授業運営にあたり非常に参考になりました。是非、取り入れていきたいと思えます。

今後の予定

こうした教材開発の学問連携、産学連携による教材開発の「場」ができたことも、当プロジェクトの大きな成果といえます。教材ビデオは、使い手の熟練化・多様化によって活用範囲が大いに広がることがわかりました。今後は、こうした知見や使い方をノウハウ集としてまとめ、より多くの教育の場に資するものとして提供していきたいものです。

まもなく今年度の教材ビデオの制作(2本を予定)に入りますが、このワークショップについては継続的に実施していく所存です。より多くの方々の知見を頂きたいと思えますので、ご関心のある方はぜひこちらまで足をお運び下さい。



略歴 84年名古屋大学大学院卒。
京都大学博士(経済学)。84～89年
京都大学経済研究所助手。90～97
年滋賀大学経済学部助教授・教授。
97年～03年法政大学経営学部教
授、04年～IM研究科教授。

文学部で学ぶことは就業力育成に有利！

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

7月21日、文学部設立90周年記念のシンポジウムにパネリストとして出席しました。「文学部に行くと言われているけれども、本当のところはどうなのか聞かせて欲しい」というのが私への依頼の理由でした。

文学部で学ぶことによって培われる能力は、人間について深く理解する力であり、この能力こそが企業が最も求めているものだという話をしました。論理的なものや情動的なもの両方を学べるのが文学部であるとおっしゃったパネリストもおられ、とても刺激的な会合でした。

どんなに情報技術が発達しても、最後に決めるのは人間です。人間は、常に合理的に行動するとは限りません。だから難しいのであり、だからおもしろいのです。人間の本質を学ぶことの意義を改めて感じました。



略歴 法政大学大学院経営学研究科
キャリアデザイン学専攻(修士)卒業
後、法政大学大学院政策創造研究科
博士後期課程に進学。
2011年3月、同博士課程中退。

内容も納期も品質も…責任がかかっているから甘えたくないんです！(学生談)

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

授業では、学生の「情報を集める力」「集めた情報を吟味する力」「アウトプットする力」の育成に取り組んでいます。1年生が受講する「キャリアデザイン入門」では、自分で調べることの面白さを感じてもらうためにも社会人を対象としたキャリア研究を行ないます。2・3年生が対象となる「就業基礎力養成」では、学生各人が報告書を2回作成し、企業側から3つの力について評価をいただきます。「就業応用力養成」では、メディアと連携し、大勢の読者に対して学生たちが記事を発信します。授業は学年が上がるにつれて、書くということに責任が生じるよう設計しています。今では、「就業応用力養成」の受講生たちが書いた原稿は日に7万ビューを超える人気記事となり、プロの執筆者たちともビューを競うほどに成長しています。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。
70～06年伊藤忠商事(株)勤務、06～11
年帝京大学と法政大学職員。
11年～法政大学教員

グループワークの持つ力

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

前期の授業が無事終了した。担当した3コマ合計500名を超える学生の平均出席率は91%、工夫をこらした結果と言える。テキストに沿った解説・グループワーク・DVD教材を使った講義・ゲストスピーカー講演をちりばめた内容だが、終わると好評なのがグループワークである。通期感想の記入では「他の人の考え方を知れた」「授業友達が出来た」など最初は尻込みしていた学生達の変化が伝わってきた。「自分を知る・現場を知る」を目標に掲げて「人と交わる」を実践させた結果といえる。授業の具体的なやり方は前号に紹介させて頂いた。今後もさらなる進化を目指して「おもしろい。ためになる。」と言われる授業を追究していきたい。

◆ 高校生向けキャリアガイダンスが全日程終了しました

猛暑の中、キャリアガイダンスに参加してくれた高校生みなさんは受講意識が高く、熱心に先生の話聞いていました。グループワークではそれぞれに興味深いアイデアを出し、またそれをしっかりと説明で発表している姿には、頼もしさを覚えました。さらにお行儀も良く、消しゴムを使って出たゴミもちゃんと集め、ゴミ箱に捨ててさわやかに挨拶をして帰って行きました。未来を担う優良高校生たちに、明るい日本の将来が見えるようでした。

◆ 編集後記

去る8月20日、ロンドン五輪のメダリストが集結し、銀座で凱旋パレードが行われました。沿道に詰めかけた観衆は約50万人！すごい人数です。当然、メダリストをひと目見ようと駆けつけた人々だと思いますが、偶然メダリストに手を合せている人をテレビで見ました。その人にとってはメダリストたちは日本を元気にしてくれた「神様」であり、感謝の気持ちを表れだっただけではないのでしょうか。そうするとパレードのバスは「七福神」の乗る宝船のようですね。日本に元気を与えてくれたメダリストたちに感謝！

〈事務局：平山〉

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局：学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム